

# HILTI

**DD 350**

日本語





## 1 文書について




### 1.1 本書について

- ご使用前に本書をすべてお読みください。このことは、安全な作業と問題のない取扱いのための前提条件となります。
- 本書および製品に記載されている安全上の注意と警告表示に注意してください。
- 取扱説明書は常に製品とともに保管し、他の人が使用する場合には、製品と取扱説明書を一緒にお渡しください。

### 1.2 記号の説明



#### 1.2.1 警告表示

警告表示は製品の取扱いにおける危険について警告するものです。記号と組み合わせで以下の注意喚起語が使用されています：

	危険！ この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。
	警告事項！ この表記は、重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。
	注意！ この表記は、軽傷あるいは物財の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。





#### 1.2.2 本書の記号

本書では、以下の記号が使用されています：

	使用前に取扱説明書をお読みください
	本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報

#### 1.2.3 図中の記号








図中では以下の記号が使用されています：

	この数字は本取扱説明書冒頭にある該当図を示しています
	付番は図中の作業手順の順序に対応していて、本文の作業手順とは一致しない場合があります
	概要図には項目番号が付されていて、製品概要セクションの凡例の番号に対応しています
	この記号は、製品の取扱いの際に特に注意が必要なことを示しています。

### 1.3 製品に表示されている記号

#### 1.3.1 製品により異なる記号

製品には以下の義務表示が使用されています：




	クレーンによる搬送禁止
	リサイクル規制部品です
	交流
	サービスインジケター
	無負荷回転数
	直径
	パワーインジケター

## 1.4 製品により異なる記号

### 3 ウェイバルブ

	湿式穿孔の位置
	乾式穿孔の位置
	コアビットの水抜き位置



	温度が 4°C 未満で 1 時間以上作業を中断する場合は、本書の記述に従って冷却回路を空にしてください。
	必ず正常に作動する漏電遮断器を使用してください。
	上: パキュームベースプレートを接続して水平方向の穿孔作業をする場合には、ドリルスタンドを固定させるための付加的な措置を施さなければなりません。

## 1.5 製品情報

Hitachi の製品はプロ仕様で製作されており、本体の使用、保守、修理を行うのは、認定を受けトレーニングされた人のみに限ります。これらの人は、遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。製品およびアクセサリの使用法を知らない者による誤使用、あるいは規定外の使用は危険です。機種名および製造番号は銘板に表示されています。

- ▶ 製造番号を以下の表に書き写しておいてください。ヒルティ代理店やサービスセンターへお問い合わせの際には、製品データが必要になります。

### 製品データ

ダイヤモンドコアドリル	DD 350-CA
製品世代	01
製造番号：	

## 1.6 適合宣言

当社は、単独の責任において本書で説明している製品が有効な基準と標準規格に適合していることを宣言します。適合宣言書の複写は本書の末尾にあります。

技術資料は本書の後続の頁に記載されています：

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH | Zulassung Geräte | Hiltistraße 6 | 86916 Kaufering, DE

## 2 安全

### 2.1 電動工具の一般安全注意事項

△ 警告事項 本電動工具に付属のすべての安全上の注意、指示事項、図、および製品仕様をお読みください。以下の指示を守らないと、感電、火災および / または重傷事故の危険があります。

安全上の注意および指示事項が書かれた説明書はすべて大切に保管してください。

安全上の注意で使用する用語「電動工具」とは、お手持ちの電動ツール（電源コード使用）またはバッテリーツール（コードレス）を指します。

#### 作業環境に関する安全

- ▶ 作業場はきれいに保ち、十分に明るくしてください。ちらかった暗い場所での作業は事故の原因となります。
- ▶ 爆発の危険性のある環境（可燃性液体、ガスおよび粉じんのある場所）では電動工具を使用しないでください。電動工具から火花が飛散し、粉じんや揮発性ガスに引火する恐れがあります。
- ▶ 電動工具の使用時、子供や無関係者を作業場へ近づけないでください。作業中に気がそらされると、本体のコントロールを失ってしまう恐れがあります。

#### 電気に関する安全注意事項

- ▶ 電動工具の接続プラグは電源コンセントにきちんと適合しなければなりません。プラグは絶対に変更しないでください。保護接地した電動工具と一緒にアダプタープラグを使用しないでください。オリジナルのプラグと適切なコンセントを使用することにより、感電の危険を小さくすることができます。
- ▶ パイプ、ラジエーター、電子レンジ、冷蔵庫などのアースされた面に体の一部が触れないようにしてください。体が触れると感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を雨や湿気から保護してください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 電動工具を持ち運んだり、吊り下げたり、コンセントからプラグを抜いたりするときは、必ず本体を持ち、電源コードを持って引っぱらないでください。電源コードを火気、オイル、鋭利な刃物、可動部等に触れる場所に置かないでください。電源コードが損傷したり絡まったりしていると、感電の危険が大きくなります。
- ▶ 屋外工事の場合には、必ず屋外専用の延長コードを使用してください。屋外専用の延長コードを使用すると、感電の危険が小さくなります。
- ▶ 湿った場所で電動工具を起動させる必要がある場合は、漏電遮断器を使用してください。漏電遮断器を使用すると、感電の危険が小さくなります。

#### 作業員に関する安全

- ▶ 電動工具を使用の際には、油断せずに十分注意し、常識をもった作業をおこなってください。疲れている場合、薬物、医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には電動工具を使用しないでください。電動工具使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。
- ▶ 個人用保護具および保護メガネを常に着用してください。負傷の危険を低減するために、電動工具の使用状況に応じた粉じんマスク、耐滑性の安全靴、ヘルメット、耳栓などの個人用保護具を着用してください。
- ▶ 電動工具の意図しない始動を防止して下さい。電動工具を電源および / またはバッテリーに接続する前や本体を持ち上げたり運んだりする前に、本体がオフになっていることを必ず確認してください。オン / オフスイッチが入っている状態で電動工具のスイッチに指を掛けたまま運んだり、電源に接続したりすると、事故の原因となる恐れがあります。
- ▶ 電動工具のスイッチを入れる前に、必ず調節キーやレンチを取り外してください。調節キーやレンチが本体の回転部に装着されたままでは、けがの原因となる恐れがあります。
- ▶ 作業中は不安定な姿勢をとらないでください。足元を安定させ、常にバランスを保つようにしてください。これにより、万一電動工具が異常状況に陥った場合にも、適切な対応が可能となります。
- ▶ 作業に適した作業着を着用してください。だぶだぶの衣服や装身具を着用しないでください。髪、衣服、手袋を本体の可動部に近づけないでください。だぶだぶの衣服、装身具、長い髪が可動部に巻き込まれる恐れがあります。
- ▶ 吸じんシステムの接続が可能な場合には、これらのシステムが適切に接続、使用されていることを確認してください。吸じんシステムを利用することにより、粉じん公害を防げます。
- ▶ 電動工具の取扱いは熟練している場合にも、正しい安全対策を遵守し、電動工具に関する安全規則を無視しないでください。不注意な取扱いは、ほんの一瞬で重傷事故を招くことがあります。

## 電動工具の使用および取扱い

- ▶ 無理のある使用を避けてください。作業用途に適した電動工具を使用してください。適切な電動工具の使用により、効率よく、スムーズかつ安全な作業が行えます。
- ▶ スイッチが故障している場合には、電動工具を使用しないでください。スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険ですので、修理が必要です。
- ▶ 本体の設定やアクセサリーの交換を行う前や本体を保管する前には電源プラグをコンセントから抜き、および/または脱着式のバッテリーを取り外してください。この安全処置により、電動工具の意図しない始動を防止することができます。
- ▶ 電動工具をご使用にならない場合には、子供の手の届かない場所に保管してください。電動工具に関する知識のない方、本説明書をお読みでない方による本体のご使用は避けてください。未経験者による電動工具の使用は危険です。
- ▶ 電動工具とアクセサリーは慎重に手入れしてください。可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、電動工具の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。電動工具をご使用になる前に、損傷部分の修理を依頼してください。事故の多くは保守管理の不十分な電動工具の使用が原因となっています。
- ▶ 先端工具は鋭利で汚れのない状態を保ってください。お手入れのゆきとどいた先端工具を使用すると、作業が簡単かつ、スムーズになります。
- ▶ 電動工具、アクセサリー、先端工具などは、それらの説明書に記載されている指示に従って使用してください。その際は、作業環境および用途についてもご注意ください。指定された用途以外に電動工具を使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。
- ▶ グリップとグリップ面は乾燥した清潔な状態に保ち、オイルやグリスの付着がないようにしてください。グリップやグリップ面が滑りやすい状態になっていると、予期していない状況が発生した際に電動工具を安全に使用/制御できません。

## サービス

- ▶ 電動工具の修理は必ず認定サービスセンターにお申し付けください。また、必ず純正部品を使用してください。これにより電動工具の安全性が確実に維持されます。

## 2.2 ダイヤモンドドリルに関する安全上の注意

- ▶ 水を使用する必要がある穿孔作業を行う際は、作業領域から水を除去するか、あるいは水を受ける容器を使用してください。このような事前処置により作業領域を乾燥した状態に保ち、感電の危険を低減します。
- ▶ 隠れた電線や装置自体の電源コードに先端工具が接触する可能性のある作業を行う場合は、絶縁されたグリップ面を掴んで電動工具を使用してください。先端工具が通電状態の配線と接触すると電動工具の金属部分にも電圧がかかり、感電の危険があります。
- ▶ ダイヤモンドコアドリルによる穿孔の際は耳栓を着用してください。騒音により、聴覚に悪影響が出る恐れがあります。
- ▶ 先端工具がブロックした場合は、それ以上先端工具を送ることをしないで電動工具をオフにします。先端工具が噛んだことの原因を突き止め、その原因を取り除いてください。
- ▶ 作業材料に食い込んでいるダイヤモンドドリルを再スタートする際は、スイッチをオンにする前に先端工具が問題なく回転するか確認してください。先端工具は噛んでいると回転せず、そのため工具の過負荷、あるいはダイヤモンドドリルが作業材料から外れる原因となることがあります。
- ▶ アンカーおよびネジによりドリルスタンドを作業材料に固定する際は、使用するアンカー具が機械の使用中被保持できるものであることを確認してください。作業材料が抵抗力のないものあるいは多孔性のものである場合は、アンカーが抜けてドリルスタンドが作業材料から外れる可能性があります。
- ▶ 壁面あるいは天井を貫通させて穿孔作業を行う場合は、反対側の作業領域およびそこにいる人員に危険が及ぶことがないか、注意してください。コアビットが穿孔穴から突出して、コアが反対側に落下する可能性があります。
- ▶ この工具は、水を供給しての上向き穿孔には使用しないでください。電動工具に水が浸入すると、感電の危険が大きくなります。

## 2.3 その他の安全上の注意

### 作業に関する安全

- ▶ 本体の加工や改造は絶対に行わないでください。
- ▶ 本体は、体の弱い人が指示を受けずに使用するには向いていません。
- ▶ 本体は子供の手が届かないところに保管してください。
- ▶ 回転部分には手を触れないでください。本体の電源は必ず作業場で入れてください。回転部分、特に回転している先端工具は負傷の原因となります。
- ▶ ノ口に皮膚が触れないようにしてください。

- ▶ 含鉛塗料、特定の種類の木材、コンクリート / 石材、石英を含む岩石、鉱物および金属などの母材から生じた粉じんは、健康を損なう危険があります。作業者や近くにいる人が粉じんに触れたり吸い込んだりすると、アレルギー反応や呼吸器疾患を起こす可能性があります。カシヤブナ材などの特定の粉じんは、特に木材処理用の添加剤（クロム塩酸、木材保護剤）が使用されている場合、発ガン性があるとされています。アスベストが含まれる母材は、必ず専門家が取り扱うようにしてください。できるだけ有効な集じん装置を使用してください。これには、本電動工具に適したHiti推奨の木材および / または鉱物粉じん用可動集じん装置を使用してください。作業場の換気に十分配慮してください。それぞれの粉じんに適した防じんマスクの着用を推奨します。処理する母材について、各国で効力を持つ規定を遵守してください。
- ▶ ダイアモンドコアドリルおよびダイヤモンドコアビットは重いので注意してください。身体の一部を挫傷する危険があります。本体使用中、作業者および現場で直近に居合わせる人々は保護メガネ、保護ヘルメット、耳栓、保護手袋、安全靴を着用しなければなりません。

#### 電動工具の慎重な取扱いおよび使用

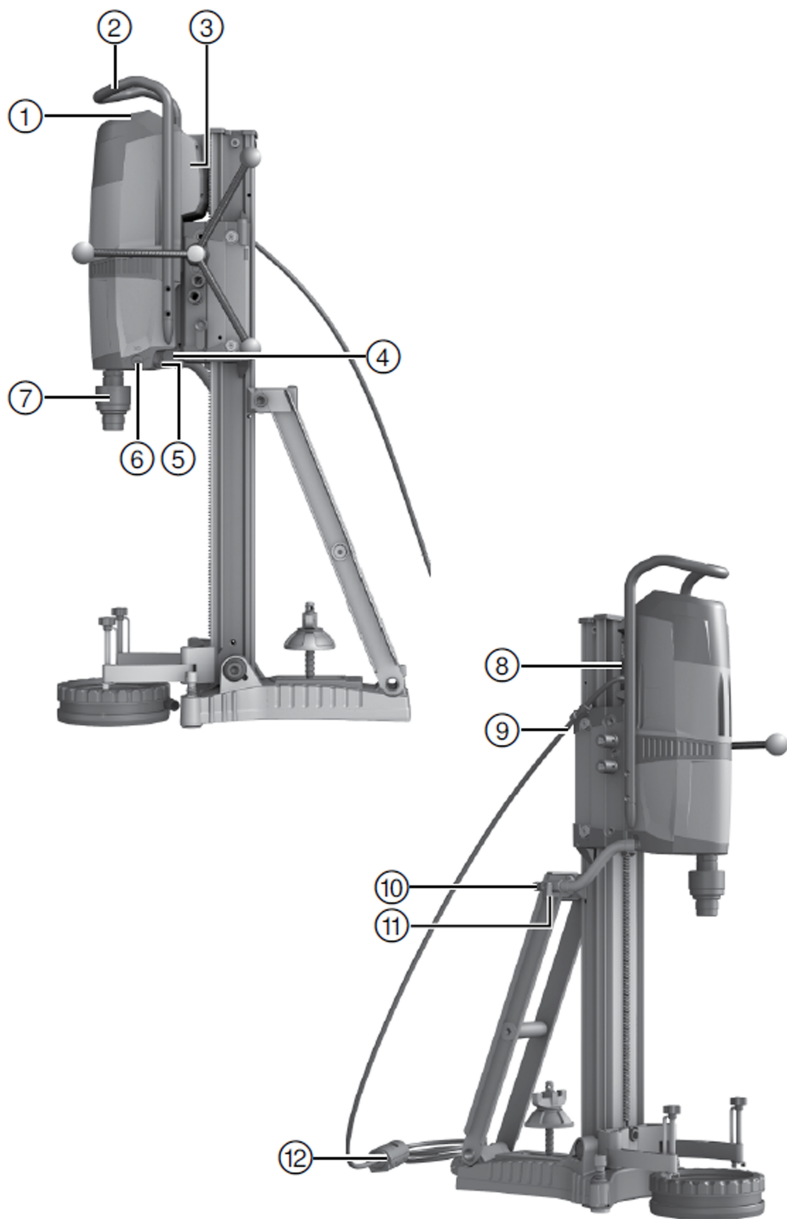
- ▶ 本体がドリルスタンドに正しく固定されていることを確認してください。
- ▶ 必ずドリルスタンドにエンドストップが取り付けられていることを確認してください。エンドストップが取り付けられていないと、安全に関するエンドストップ機能が正しく作動しません。
- ▶ 先端工具がチャック機構に適合し、チャック内にしっかりと固定されていることを確認してください。

#### 電気に関する安全注意事項

- ▶ コンセント口が数個付いている延長コードに、複数の機器を同時に接続して使用しないでください。
- ▶ 本体は、必ずアース線付きの十分な長さの主電源に接続して使用してください。
- ▶ 作業を開始する前に、作業場に埋設された電線、ガス管や水道管がないかを金属探知機などで調査してください。例えば、作業中に誤って先端工具が電線に触れると、本体の金属部分とケーブルが通電する可能性があります。この場合、感電による重大な事故が発生する危険があります。
- ▶ キャリッジを動かす際に電源コードが損傷しないように注意してください。
- ▶ 本体を動作させる場合は、必ず同梱の漏電遮断器を使用してください（漏電遮断器のない装置は決して絶縁変圧器なしで使用しないでください）。ご使用前には毎回、漏電遮断器を点検してください。
- ▶ 本体の電源コードを定期的に点検し、コードに損傷がある場合は認定を受けた修理スペシャリストに交換を依頼してください。電動工具の電源コードが損傷した場合は、専用の承認された交換用電源コードと交換してください。交換用電源コードはヒルティサービスセンターにご注文ください。延長コードを定期的に点検し、損傷がある場合は交換してください。作業中、損傷した電源コード、延長コードには触れないでください。電源プラグをコンセントから抜きます。損傷した電源コードや延長コードは感電の原因となり危険です。
- ▶ 本体は、決して汚れた状態あるいは濡れた状態で使用しないでください。本体表面に埃（特に導電性の物質）が付着していたり、あるいは濡れていると、好ましくない条件下においては感電の原因となることがあります。したがって特に導電性のある物質に対する作業を頻繁に行う場合は、定期的にHiti サービスセンターに本体の点検を依頼してください。

#### 作業場の安全確保

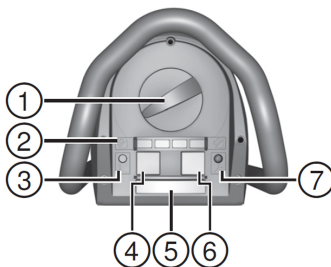
- ▶ 穿孔作業は現場監督者の許可を得て行ってください。建物およびその他の構造物への穿孔作業、特に鉄筋または鉄骨梁の除去は静力学に影響を及ぼします。
- ▶ 転倒を防止するために、ドリルスタンドが正しく固定されていない場合にはドリルスタンドに取り付けた本体を必ず最低位置にしてください。
- ▶ 電源および延長ケーブル、吸引およびバキュームホースを回転部分から遠ざけてください。
- ▶ 湿式穿孔での上向きの施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。
- ▶ 上向きの施工時には、追加の固定具なしでのバキュームによる固定は禁止されています。
- ▶ バキュームベースプレート（アクセサリ）を接続して水平方向の穿孔作業をする場合には、必ずドリルスタンドを固定させるための付加的な措置を施してください。





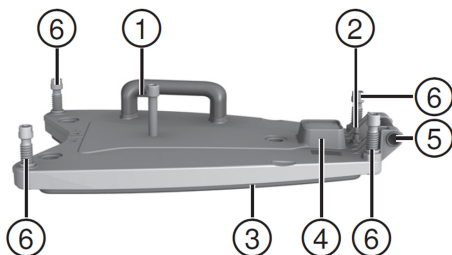
- |                  |                |
|------------------|----------------|
| ① 操作部 / 表示ディスプレイ | ⑦ チャック         |
| ② キャリアグリップ       | ⑧ 接続ソケット       |
| ③ 出力銘板           | ⑨ 電源コードガイド     |
| ④ グリップ           | ⑩ 給水コネクター      |
| ⑤ 排水栓            | ⑪ 給水コック        |
| ⑥ 3ウェイバルブ        | ⑫ 漏電遮断器付き電源コード |

### 3.2 操作部 / 表示ディスプレイ

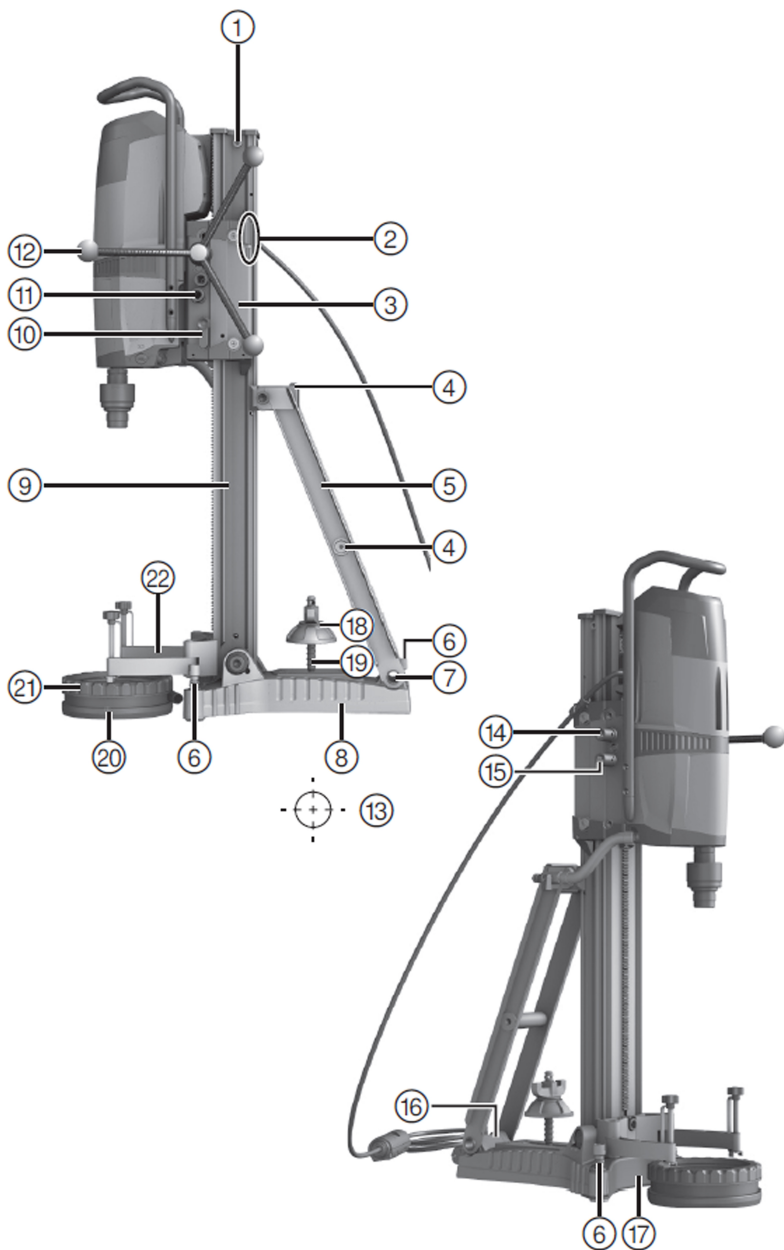


- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ① ギア選択スイッチ    | ⑤ OFFスイッチ               |
| ② パワーインジケータ   | ⑥ Iron Boost (鉄筋貫通) ボタン |
| ③ 温度モニター / 漏電 | ⑦ サービスインジケータ            |
| ④ ONスイッチ      |                         |

### 3.3 バキュームベースプレート (アクセサリ)



- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| ① バキュームリリースバルブ | ④ 圧力ゲージ             |
| ② バキュームホース     | ⑤ ホイールアセンブリー取付けポイント |
| ③ バキュームシール     | ⑥ レベル調整スクリュー (4本)   |



### DD-HD 30 ドリルスタンド (アクセサリ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ① コラムカバー付きリミットストップ  | ⑩ キャリッジロック機構       |
| ② レベリングインジケータ (2個)  | ⑪ 本体ロックボルト (偏心ボルト) |
| ③ キャリッジ             | ⑫ ハンドル             |
| ④ キャリンググリップ (2個)    | ⑬ アンカーポジション        |
| ⑤ ストラット             | ⑭ 減速ギア (1:3)       |
| ⑥ レベル調整スクリュー (3本)   | ⑮ ダイレクトドライブ (1:1)  |
| ⑦ ホイールアセンブリー取付けポイント | ⑯ 出力銘板             |
| ⑧ ベースプレート           | ⑰ ポジションインジケータ      |
| ⑨ コラム               |                    |

### ドリルスタンド取付けセット (アクセサリ)

- ⑱ クランピングナット
- ⑲ クランピングスピンドル

### 水処理システム (アクセサリ)

- ⑳ シール
- ㉑ ウォーターコレクターヘッド
- ㉒ ウォーターコレクターホルダー

## 3.5 正しい使用

本書で説明している製品は、ダイヤモンドコアビットにより (鉄筋入りの) コンクリート、石材等へ貫通穴および非貫通穴を穿孔するように設計された湿式の電動ダイヤモンドコアドリルで、ドリルスタンドに固定して使用します。

ダイヤモンドコアドリルで作業する際にはドリルスタンドを使用し、ドリルスタンドはアンカーまたはバキュームベースプレートを使用してしっかりと母材に固定してください。

- ▶ 必ず、出力銘板に表示されている電源電圧および電源周波数で動作させてください。
- ▶ 本書で説明している製品は、手持ちで使用するには適していません。

## 3.6 各種装備での使用

ドリルスタンドコラムを 2 m 以上に延長した場合は、追加のサポートを使用する必要があります。

装備	コアビット直径 $\phi$	穿孔方向	標準作業長
水処理システム付きシステム	52 mm...250 mm	全方向	500 mm
水なしのシステム	52 mm...500 mm	全方向	500 mm

## 3.7 表示部

状態	意味
サービスインジケータが点灯	• Hilti サービスセンターに修理を依頼する。
サービスインジケータが一時的に点滅	• 製品の症状。
サービスインジケータが連続的に点滅	• Hilti サービスセンターに修理を依頼する。
冷却および電源エラーインジケータが点灯	• 給水を点検する。
冷却および電源エラーインジケータが点滅	• 電源を点検する。
パワーインジケータが緑色で点灯	• 理想的な押し付け (穿孔開始後)。
パワーインジケータがオレンジ色で点灯	• 押し付けが弱すぎる (例: 穿孔開始時)。
パワーインジケータが赤色で点灯	• 押し付けが強すぎる。

## 3.8 本体標準セット構成

ダイヤモンドコアドリル、取扱説明書。

その他の本製品用に許可されたシステム製品については、弊社営業担当または **Hilti Store** にお問い合わせいただくか、あるいは [www.hilti.group](http://www.hilti.group) | USA: [www.hilti.com](http://www.hilti.com) でご確認ください。

## 4 製品仕様

### 4.1 ダイヤモンドコアドリル



#### 注意事項

定格電圧、定格電流、周波数および / または定格電力については、国別の銘板でご確認ください。

発電機または変圧器を使用しての作業の場合は、それらは本体の銘板に記載されている定格電力より2倍以上大きな出力がなければなりません。変圧器または発電機の作動電圧は、常に本体の定格電圧の+5%...-15%の範囲になければなりません。

	DD 350
チャック	BL
最大許容水圧	6 bar
最小流量 (最高 +30°C)	0.5 ℓ/min
重量 (本体) (EPTA プロシージャ 01 に準拠)	14.4 kg
重量 (ドリルスタンド) (EPTA プロシージャ 01 に準拠)	20.5 kg
定格電力	3,600 W
延長シャフトなしの最大穿孔深さ	500 mm
保護等級	I
漏電遮断器	(PRCD)
防じん防水性規格	IP 55

### 4.2 コアビット直径に応じたのギア選択

	コアビット直径 <sup>①</sup>	コアビット直径 <sup>②</sup>	無負荷回転数 (240 V)	無負荷回転数 (110 V)
1	52 mm ... 62 mm	2 in ... 2 3/8 in	667/min	667/min
2	72 mm ... 92 mm	2 3/4 in ... 3 1/2 in	667/min	667/min
3	102 mm ... 112 mm	4 in ... 4 1/2 in	667/min	619/min
4	122 mm	4 3/4 in	619/min	571/min
5	127 mm ... 142 mm	5 in ... 5 1/2 in	571/min	524/min
6	152 mm ... 162 mm	6 in ... 6 3/4 in	524/min	464/min
7	172 mm ... 182 mm	6 3/4 in ... 7 in	405/min	369/min
8	202 mm	8 in	357/min	321/min
9	225 mm ... 250 mm	9 in ... 10 in	310/min	286/min
10	300 mm ... 500 mm	12 in ... 20 in	286/min	238/min

### 4.3 騒音および振動値について (EN 62841 準拠)

本説明書に記載されているサウンドプレッシャー値および振動値は、規格に準拠した測定方法に基づいて測定したものです。電動工具を比較するのにご使用いただけます。曝露値の暫定的な予測にも適しています。記載されているデータは、電動工具の主要な使用方法に対する値です。電動工具を他の用途で使用したり、異なる先端工具を取り付けて使用したり、手入れや保守が十分でないまま使用した場合には、データが異なることがあります。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく高くなる可能性があります。曝露値を正確に予測するためには、本体のスイッチをオフにしている時間や、本体が作動していても実際には使用していない時間も考慮しなければなりません。このような相違により、作業時間全体で曝露値が著しく低くなる可能性があります。

作業者を騒音および / または振動による作用から保護するために、他にも安全対策を立ててください (例 : 電動工具および先端工具の手入れや保守、手を冷やさないようにする、作業手順の編成)。

#### 騒音排出値

	DD 350
サウンドパワーレベル ( $L_{wA}$ )	108 dB(A)
サウンドプレッシャーレベルの不確かさ ( $K_{pA}$ )	3 dB(A)

	<b>DD 350</b>
サウンドプレッシャーレベル ( $L_{pA}$ )	95 dB(A)
サウンドパワーレベルの不確か性 ( $K_{WA}$ )	3 dB(A)

#### 振動について

	<b>DD 350</b>
コンクリートへの穿孔 (湿式) ( $a_{n, dB}$ )	2.5 m/s <sup>2</sup>
不確か性 (K)	1.5 m/s <sup>2</sup>

## 5 ご使用方法

### 5.1 作業準備

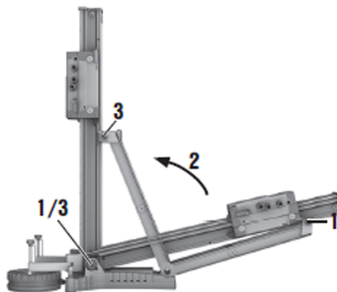


#### 警告

負傷の危険。ドリルスタンドは、確実に固定されていないと回転したり傾いたりすることがあります。

- ▶ ダイヤモンドコアドリルを使用する前に、アンカーまたはバキュームベースプレートによりドリルスタンドを作業を行う母材に固定してください。
- ▶ 必ず母材に適したアンカーを使用し、アンカーメーカーの取付け指示に従ってください。
- ▶ バキュームベースプレートは、母材がバキュームによるドリルスタンドの固定に適したものである場合にのみ使用するようにしてください。

#### 5.1.1 ドリルスタンドを組み立てる



1. ストラット上部とコラムのピボット下部のネジを緩めます。
2. コラムを垂直位置にします。
3. ストラット上部とコラムのピボット下部のネジを締め付けます。
4. コラム上端のエンドキャップ (一体型エンドストップ付き) を取り付けます。

#### 5.1.2 ハンドルを取り付ける



#### 注意事項

ハンドルは、キャリッジの右側あるいは左側の2本の異なる軸に取り付けることができます。

ハンドルを上側の軸に取り付けると、軸はキャリッジを直接駆動します。

ハンドルを下側の軸に取り付けると、軸はキャリッジを減速ギアにより駆動します。

1. ハンドルを適切な側の希望の軸に取り付けます。
2. ハンドルをネジで固定します。

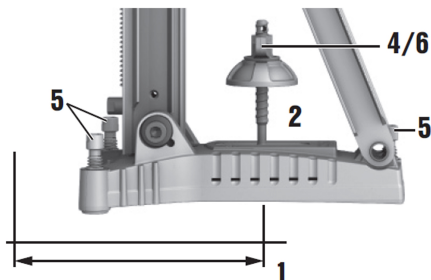
### 5.1.3 ドリルスタンドをアンカーで固定する



#### 警告

負傷の危険 正しくないアンカーを使用すると、本体が外れて損害が発生する危険があります。

- 母材に適したアンカーを使用し、アンカーメーカーの取付け指示にしたがってください。確実な固定については、弊社営業担当またはHilti 代理店・販売店までお問い合わせください。



- ベースプレート用のアンカーを穿孔中心から 330 mm (13 インチ) 離れた位置に打鉄します。



#### 注意事項

スペーサーを使用して作業すると、間隔は適切な大きさになります。

- アンカーにクランピングスピンドルをねじ込みます。
- クランピングスピンドルの上にドリルスタンドを置き、ドリルスタンドの位置を調整します。
- クランピングナットをスピンドルに取り付けます。但し、ナットを一杯には締め付けしないでください。
- レベル調整スクリューを用いてベースプレートを水平にします。
- 適切なオープンエンドレンチを用いて、クランピングスピンドル上のクランピングナットを締め付けます。
- ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

### 5.1.4 ドリルスタンドをバキュームで固定する



#### 危険

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの落下による危険があります。

- ドリルスタンドをバキュームベースプレートのみを使用して天井に固定することは許可されません。重量のあるサポートあるいはネジジャッキなどで追加の固定を確実なものにすることができません。



#### 警告

負傷の危険 圧力チェック

- 穿孔前および穿孔中に、圧力ゲージの指針が緑の領域から出ないようにしなければなりません。



#### 注意事項

ドリルスタンドをアンカーベースプレートとともに使用する場合は、バキュームベースプレートとアンカーベースプレート間の接続が確実に平坦なものであることを確認してください。アンカーベースプレートをバキュームベースプレートにしっかりとねじ止めします。選択したコアビットがバキュームベースプレートを損傷することがないことを確認してください。

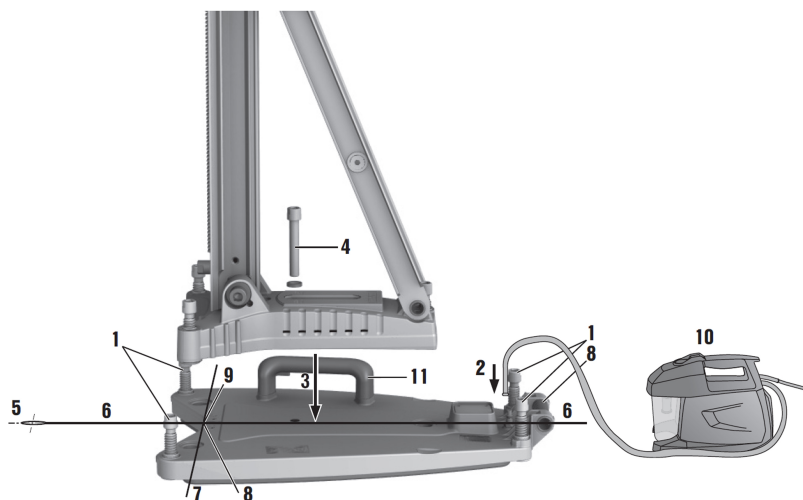
水平方向の穿孔作業の際は、ダイヤモンドコアドリルを追加固定してください（例：アンカーによるチェーン固定）。

バキュームポンプの取扱説明書を参照してください。



### 注意事項

ドリルスタンドの位置を合わせる前に、取り付けおよび操作のための十分なスペースが確保されているか確認してください。



1. すべてのレベル調整スクリューを、バキュームベースプレート内の約 5 mm 下まで突出させます。
2. バキュームベースプレートのバキュームホースをバキュームポンプに接続します。
3. ドリルスタンドをバキュームベースプレートの上に置きます。
4. ドリルスタンドを同送の下敷きディスク付きネジでバキュームベースプレートに取り付け、ネジを締め付けます。
5. 穿孔中心位置を決めます。
6. コア抜きシステムを立てる方向に向かって約 800 mm の線を引きます。
7. 800 mm の線上で穿孔中心位置から 165 mm (6 1/2 インチ) のところにマークを付けます。
8. バキュームポンプをスイッチオンにし、バキュームリリースバルブを押し続けてください。
9. ドリルスタンドを母材上で位置合わせします。
10. バキュームリリースバルブから指を放します。
11. レベル調整スクリューを用いてバキュームベースプレートを水平にします。
  - ◁ 圧力ゲージの指針は緑の領域内にあります。



### 注意事項

アンカーベースプレートはバキュームベースプレート上でレベル調整しないでください。

12. 水平方向の穿孔作業の際にはドリルスタンドを固定してください。
13. ドリルスタンドが確実に固定されていることを確認してください。

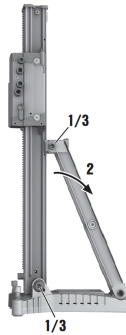
### 5.1.5 ドリルスタンドの穿孔角度をコンベースプレートで調整する



#### 警告

負傷の危険 回転エリアで指を挟まれないように注意してください。

- ▶ 保護手袋を着用してください。



1. ストラット上部とコラムのピボット下部のネジを緩めます。
2. コラムをご希望の位置に合わせます。
3. ストラット上部とコラムのピボット下部のネジを締め付けます。

### 5.1.6 コラムを延長する

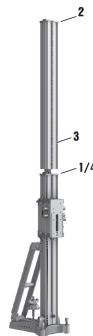


#### 注意事項

穿孔には、コアビットあるいは全長が 650 mm (25 1/2 インチ) 以下の延長コアビットのみを使用してください。

デプスゲージを補助エンドストップとしてコラムで使用することができます。

延長コラムを取り外した後は、再びエンドキャップ（一体型エンドストップ付き）をドリルスタンドに取り付ける必要があります。そうしないと、安全関連のエンドストップ機能が作動しません。



1. コラム上端のエンドキャップ（一体型エンドストップ付き）を外します。
2. エンドキャップを延長コラムに取り付けます。
3. 延長コラムのシリンダーをドリルスタンドのコラムに挿入します。
4. ロッキングボルトを回して延長コラムを固定します。



### 5.1.7 スペーサーを取り付ける



#### 警告

負傷の危険。固定部に過負荷がかかることがあります。

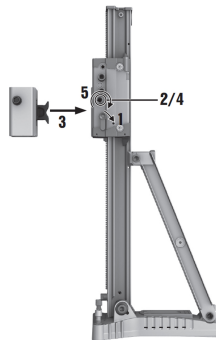
- ▶ 1個あるいは複数のスペーサーを使用している場合は、固定部に過負荷を与えないように接触圧を低減する必要があります。



#### 注意事項

直径 300 mm (11 1/2 インチ) を超過するダイヤモンドコアビットを使用する場合は、1個または2個のスペーサーを取り付けて、ドリル軸とドリルスタンド間の間隔を広げる必要があります。ポジショニングゲーターをスペーサーと一緒に使用することはできません。

スペーサーの取り付け時にはダイヤモンドコアドリルは取り付けられていません。



1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
2. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジにロックするためのロッキングボルトを抜き取ります。
3. キャリッジにスペーサーを取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジにストップ位置まで押し込みます。
5. ロッキングボルトを締め付けます。
6. スペーサーが確実に固定されていることを確認してください。

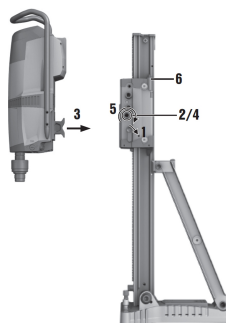
### 5.1.8 ダイヤモンドコアドリルをドリルスタンドに固定する



#### 注意

負傷の危険 ダイヤモンドコアドリルの意図しない始動による危険。

- ▶ セットアップ作業時には、ダイヤモンドコアドリルが主電源に接続されてはなりません。



1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。

2. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジにロックするためのロッキングボルトを抜き取ります。
3. ダイヤモンドコアドリルをキャリッジまたはスパーサーに取り付けます。
4. ロッキングボルトをキャリッジまたはスパーサーにストップ位置まで押し込みます。
5. ロッキングボルトを締め付けます。
6. キャリッジカバーの電源コードガイドに電源コードを固定します。
7. ダイヤモンドコアドリルがドリルスタンドに確実に固定されていることを確認してください。

### 5.1.9 給水コネクターを取り付ける



#### 注意

人および資材への危険 誤った使用によりホースが先勝することがあります。

- ▶ 定期的にホースに損傷がないか点検し、最大許容給水圧が 6 bar を超えないことを確認してください。
- ▶ ホースが回転部分と接触していないことを確認してください。
- ▶ キャリッジフィードの時にホースが損傷しないように注意してください。
- ▶ 最高水温：40°C。
- ▶ 接続しているウォーターシステムに漏れがないかチェックしてください。



#### 注意事項

コンポーネントの損傷を防止するために、真水または汚れの粒子が含まれていない水のみを使用してください。

本体と給水ホースの間に水流計（アクセサリー）を取り付けることができます。

1. ダイヤモンドコアドリルの給水コックを閉じます。
2. 給水のための接続を構築します（ホースコネクター）。

### 5.1.10 水処理システム（アクセサリー）を取り付ける



#### 警告

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 水があふれてモーターおよびエンドキャップまで流れないように注意してください。
- ▶ 上向き穿孔時には、必ず湿式バキュームクリーナーを使用してください。



#### 注意事項

ダイヤモンドコアドリルは天井に対して 90° の角度になければなりません。水処理システムのウォーターコレクターワッシャーは、ダイヤモンドコアビットの直径に適合したものでなければなりません。



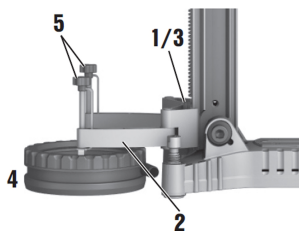
#### 注意事項

水処理システムを使用するとコアビットから水を適切に除去できるため、周辺を汚すことがあります。湿式バキュームクリーナーと組み合わせると最上の結果が得られます。



#### 注意事項

ドリルスタンド使用時：ウォーターコレクターホルダーを取り付ける前に、ウォーターコレクターホルダー用スパーサーをドリルスタンドに固定します。



1. コラム前側下部にあるドリルスタンドのネジを緩めます。
2. ウォーターコレクターホルダーを下から、ネジの裏側に移動させます。
3. ネジをしっかりと締め付けます。
4. シールを取り付けたウォーターコレクターとウォーターコレクターワッシャーを、ホルダーの2個の可動アームの間に取り付けます。
5. ウォーターコレクターを2本のネジでホルダーに固定します。
6. ウォーターコレクターに湿式バキュームクリーナーを接続するか、水を流出することのできるホースを接続します。

#### 5.1.11 ダイヤモンドコアビットを装着する



##### 危険

負傷の危険 作業材料や折れた先端工具の破片が飛散して、作業領域外の人員にも負傷を負わせる恐れがあります。

- ▶ 損傷した先端工具は使用しないでください。先端工具を使用する際は、その都度まず折損や亀裂、摩損あるいは激しい摩耗のないことを確認してください。



##### 注意

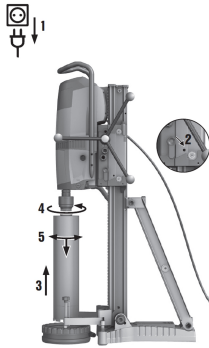
負傷の危険 使用中に先端工具が高温になる場合があります。エッジが鋭くなっている場合があります。

- ▶ 先端工具の交換時には保護手袋を着用してください。



##### 注意事項

切断性能あるいは穿孔能力の低下が認められるようになったら、ダイヤモンドコアビットは直ちに交換する必要があります。一般的に、ダイヤモンドセグメントの高さが2 mm (1/16 インチ) 未満になったら交換する必要があります。



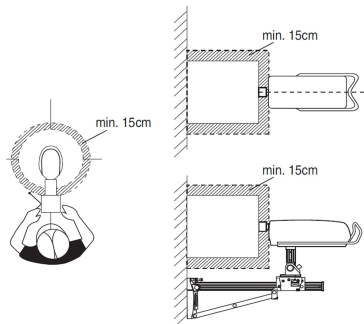
1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。キャリッジが確実に固定されていることを確認してください。
2. オープンマークの方向へ回してチャックを開きます。
3. ダイヤモンドコアビットのチャック機構を、下からコアドリルのチャックに挿入し、ギアが噛み合うまで押し込みます。
4. クローズマークの方向へ回してチャックを閉じます。
5. ダイヤモンドコアビットがチャックに確実に取り付けられているか点検します。

#### 5.1.12 デプスゲージ (アクセサリー) を調整する

1. コアビットが母材に接触するまでハンドルを回します。
2. ご希望の穿孔長に合わせて、キャリッジとデプスゲージ間の間隔を調整します。
3. デプスゲージを固定します。

## 5.2 作業

### 5.2.1 危険領域から距離をとる



上図の網掛けした領域はダイヤモンドコアドリルの危険領域です。

- 作業の際はコアビットから 15 cm 以上の間隔を保ってください。
- 穿孔作業中は、身体がドリルスタンドの後方にあるようにしてください。

### 5.2.2 全負荷回転数を選択する



#### 注意事項

スイッチは必ず停止状態で操作してください。

1. 使用するコアビット直径に応じてギアを選択します。
2. スイッチを推奨位置に回します、その際同時に手でコアビットも回します。

### 5.2.3 漏電遮断器 (PRCD)

1. ダイヤモンドコアドリルの電源プラグをアース接続付きコンセントに差し込みます。
2. 漏電遮断器 (PRCD) の**ON** ボタンを押します。
  - ◁ インジケーターが点灯します。
3. 漏電遮断器 (PRCD) の**TEST** ボタンを押します。
  - ◁ インジケーターが消灯します。



#### 警告

負傷の危険 感電の危険。

- ▶ 表示が消えない場合、ダイヤモンドコアドリルを使い続けてはいけません。弊社営業担当またはHilti 代理店・販売店にダイヤモンドコアドリルの修理を依頼してください。

4. 漏電遮断器 (PRCD) の**ON** ボタンを押します。
  - ◁ インジケーターが点灯します。

### 5.2.4 穿孔開始機能を使用して穿孔する

1. コアビットを母材に接触させることなく、しかしできるだけ母材へと近づけます。
2. ダイヤモンドコアドリルの ON スイッチを押します。
3. ダイヤモンドコアドリルの ON スイッチをもう一度押します。
  - ◁ コアビットがゆっくりと回転します (約 21 min-1)
4. コアビットを母材に押し付けます。
5. 約 5 秒後に ON スイッチをもう一度押します。
  - ◁ コアビットが通常で回転します。
6. 穿孔を続けます。

### 5.2.5 ダイヤモンドコアドリルを作動させる



#### 警告

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 湿式穿孔での上向きの施工時には、湿式バキュームクリーナーに接続した水処理システムを必ず使用してください。



#### 危険

人および資材への危険 湿式バキュームクリーナーは遅れてオン / オフになります。これにより、水がダイヤモンドコアドリルからあふれ出す危険があります。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き穿孔の際には、水供給部を開く前に湿式バキュームクリーナーを手動でスタートさせ、水供給部を閉じた後に湿式バキュームクリーナーを手動でオフにする必要があります。



#### 危険

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

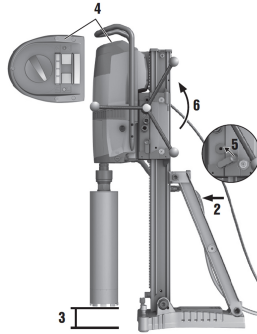
- ▶ 上向き穿孔時には、集じん装置が機能しない場合は (例: 湿式バキュームクリーナーが満杯) 作業を中断してください。



#### 警告

人および資材への危険 水受け機能は、上向き斜め穿孔の際には無効になります。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き斜め穿孔は行わないでください。



1. 給水コックを、ご希望の水量に達するまでゆっくりと開きます。
2. ダイヤモンドコアドリルの ON スイッチを押します。
3. キャリッジロック機構を開きます。
4. コアビットが母材に接触するまでハンドルを回します。
5. 穿孔開始時には、コアビットがセンタリングされるまで軽く押し付けるだけにしてください。コアビットがセンタリングされた後、接触圧を高めてください。
6. パワーインジケータに応じて接触圧を調整してください。

### 5.2.6 ダイヤモンドコアドリルを乾式動作させる



#### 危険

人および資材への危険 ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き穿孔時には、集じん装置が機能しない場合は（例：湿式バキュームクリーナーが満杯）作業を中断してください。



#### 警告

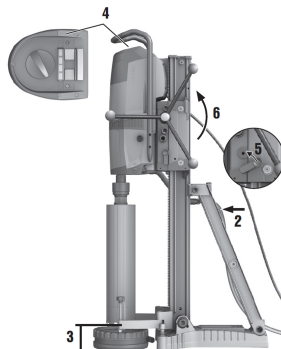
人および資材への危険 水受け機能は、上向き斜め穿孔の際には無効になります。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向き斜め穿孔は行わないでください。



#### 注意事項

防じんマスクを使用してください。



1. 集じん装置と圧縮エアをオンにします。
2. コアドリルの 3 ウェイバルブを乾式穿孔位置にします。
3. ダイヤモンドコアドリルの ON スイッチを押します。

4. キャリッジロック機構を開きます。
5. コアビットが母材に接触するまでハンドルを回します。
6. 穿孔開始時には、コアビットがセンタリングされるまで軽く押し付けるだけにしてください。コアビットがセンタリングされた後、接触圧を高めてください。
7. パワーインジケータに応じて接触圧を調整してください。

## 5.2.7 ダイヤモンドコアドリルの電源をオフにする



### 警告

人および資材への危険 上向きの穿孔作業時にはコアビットが水で満たされます。ダイヤモンドコアドリルが損傷し、感電の危険が高まります。

- ▶ 上向きの穿孔作業を終了する時には、まず水を慎重に流し出してください。給水ホースを給水コックから外し、給水コックを開いて水を排出します。水があふれてモーターおよびエンドキャップまで流れないように注意してください。

1. 以下の条件があてはまる場合は、追加してこの作業を行ってください：

条件: 上向き穿孔

- ▶ コアビット内の水を排出するために3ウェイバルブを中央位置にします。
2. ダイヤモンドコアビットを穿孔穴から引き出します。
  3. ダイヤモンドコアドリルの電源をオフにします。
  4. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。
  5. 湿式バキュームクリーナーがある場合には、そのスイッチをオフにします。

## 5.2.8 コアビットが鉄筋を噛んだ場合の作業手順

コアビットが鉄筋を噛んだ場合は、最初に安全クラッチが作動します。続いてモーターがオフになります。コアビットは以下の手順によって外すことができます：

### 5.2.8.1 コアビットを外す

1. 電源プラグをコンセントから抜きます。
2. 以下の条件があてはまる場合は、追加してこの作業を行ってください：

条件: オープンエンドレンチを使用して外す

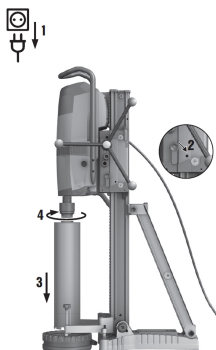
- ▶ オープンエンドレンチを使用してコネクションエンドの近くでコアビットを外します。
- ▶ コアビットを回して外します。

3. 以下の条件があてはまる場合は、追加してこの作業を行ってください：

条件: ハンドルを使用して外す

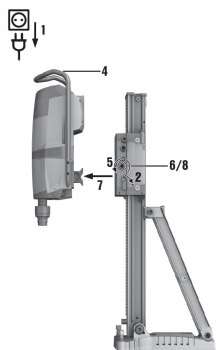
- ▶ ハンドルを使用してコアビットを母材から外します。
  - ▶ ハンドルを軽く回してロックを確認してください。
  - ▶ ダイヤモンドコアドリルの電源プラグをコンセントに差し込みます。
4. ダイヤモンドコアドリルの電源プラグをコンセントに差し込みます。
  5. 穿孔を続けます。

## 5.2.9 ダイヤモンドコアビットを取り外す



1. 電源プラグをコンセントから抜きます。
2. キャリッジをコラムにロックします。
3. ハンドルを軽く回してロックを確認してください。
4. オープンマークの方向へ回してチャックを開きます。
5. コアビットを取り外します。

## 5.2.10 ダイヤモンドコアドリルを取り外す



1. キャリッジロック機構によりキャリッジをコラムにロックします。キャリッジが確実に固定されていることを確認してください。
2. 片方の手でダイヤモンドコアドリルのキャリンググリップを保持します。
3. ダイヤモンドコアドリルのロッキングボルトを緩めます。
4. ロッキングボルトを外します。
5. キャリッジからダイヤモンドコアドリルを取り外します。
6. ロッキングボルトをキャリッジにストップ位置まで押し込みます。

## 6 手入れと保守



### 警告

感電による危険！ 電源プラグをコンセントに接続した状態で手入れや保守を行うと、重傷事故および火傷の危険があります。

- ▶ 手入れや保守作業の前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

### 手入れ

- 強固に付着した汚れは慎重に除去してください。
- 通気溝を乾いたブラシで入念に清掃してください。



- ハウジングは必ず軽く湿らせた布で清掃してください。シリコンを含んだ清掃用具はプラスチック部品をいためる可能性があるので使用しないでください。

## 保守



### 警告

感電による危険！ 電気部品の誤った修理は、重傷事故および火傷の原因となることがあります。

- ▶ 電気部品の修理を行うことができるのは、訓練された修理スペシャリストだけです。

- 目視確認可能なすべての部品について損傷の有無を、操作エレメントについては問題なく機能することを定期的に点検してください。
- 損傷および / または機能に問題のある場合は、電動工具を使用しないでください。直ちにHilti サービスセンターに修理を依頼してください。
- 手入れおよび保守作業の後は、すべての安全機構を取り付けて機能を点検してください。

## 6.1 コラムとキャリッジ間の遊びを調整する



### 注意事項

キャリッジの 4 本の調整ネジでコラムとキャリッジ間の遊びを調整することができます。4 個の調整式ローラーを以下のように調整します。

1. 調整ネジをアレンレンチ SW5 で緩めます (取り外さないこと)。
2. オープンエンドレンチ SW19 を使用して調整ネジを回し、ローラーを軽くコラムに押し付けます。
3. 調整ネジを締め付けます。キャリッジは、ダイヤモンドコアビットが取り付けられていない状態では所定位置にあり、ダイヤモンドコアビットを装着すると降下するならば、正しく調整されています。

## 7 搬送および保管

- 電動工具は先端工具を装着した状態で搬送しないでください。
- 電動工具は常に電源プラグを外して保管してください。
- 本体は、乾燥している場所に、子供や権限のない人が手を触れることのないようにして保管してください。
- 電動工具を長距離にわたって搬送したり長期にわたって保管した後は、使用の前に損傷がないかチェックしてください。

## 7.1 凍結温度時での保管と休憩



### 注意事項


4 °C (39 °F) より低い温度の場合、休憩を 1 時間以上取る際あるいは保管の前に、水回路内の水分を圧縮エアで吹き飛ばす必要があります。


1. 給水ホースを接続解除します。
2. 給水ラインをダイヤモンドコアドリルから接続解除します。
3. 給水コックを開きます。
4. 3 ウェイバルブを湿式穿孔位置にします。
5. 圧縮エア (最大圧力: 3 bar) で水回路から水分を吹き飛ばします。

## 8 故障時のヒント

この表に記載されていない、あるいはご自身で解消することのできない故障が発生した場合には、弊社営業担当またはHilti サービスセンターにご連絡ください。



### 8.1 ダイヤモンドコアドリルが作動する



故障	考えられる原因	解決策
 サービスインジケータが点灯。	サービス時期に達した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ できるだけ早い機会にダイヤモンドコアドリルをHilti に送付して修理を依頼してください。</li> </ul>

故障	考えられる原因	解決策
 <p>サービスインジケータが点滅。</p>	サービス時期が過ぎた。	▶ ダイヤモンドコアドリルをHitiに送付してください。
穿孔速度が低下する。	最大穿孔深さに達している。	▶ コアを外し、コアビット延長シャフトを使用します。
	コアがダイヤモンドコアビット内で引っ掛かっている。	▶ コアを取り外します。
	仕様が母材に適していない。	▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択してください。
	鋼材含有量が多い（金属切り屑を含んだ濁りのない水により確認可能）。	▶ 適切な仕様のダイヤモンドコアビットを選択してください。
	ダイヤモンドコアビットの故障。	▶ ダイヤモンドコアビットに損傷がないか点検し、必要ならば交換します。
	ギアの実装が正しくない。	▶ 正しいギアを選択してください。
	接触圧が低すぎる。	▶ 接触圧を高くします。
	本体出力が低すぎる。	▶ 1段階強力なギアを選択します。
	ダイヤモンドコアビットの目つぶれ。	▶ 研磨盤でダイヤモンドコアビットを研ぎます。
	水量が多すぎる。	▶ 給水コックで水量を減少させます（最低必要水量 0.5 l/min を確保する）。
水量が少なすぎる。	▶ ダイヤモンドコアビットへの給水をチェックするか、あるいは給水コックで水量を多くします。	
キャリッジロック機構が閉じている。	▶ キャリッジロック機構を開きます。	
ダイヤモンドコアビットが回転しない。	ダイヤモンドコアビットが母材を噛んだ。	▶ オープンエンドレンチを使ってコアビットを外す：不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜いてください。コネクションエンド付近で適切なオープンエンドレンチを使ってダイヤモンドコアビットをはさみ、ダイヤモンドコアビットを回しながら外します。
		スタンドを使用した穿孔 ▶ ハンドルを回してキャリッジを上下に動かして、ダイヤモンドコアビットを外します。
ハンドルを抵抗なく回せる。	シャーペンが折れている。	▶ シャーペンを交換します。
ダイヤモンドコアビットをチャックに挿入できない。	コネクションエンド / チャックの汚れまたは損傷。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃してグリスを塗布するか、あるいはこれらを交換します。
ウォーターシールまたはギアハウジングから水が漏れ出る。	水圧が過大。	▶ 水圧を低くします。


故障	考えられる原因	解決策
作動中、チャックから水が漏れ出る。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ダイヤモンドコアビットをしっかとねじて締め付けます。</li> <li>▶ ダイヤモンドコアビットを取り外します。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回します。ダイヤモンドコアビットを再度取り付けます。</li> </ul>
	コネクションエンド / チャックの汚れ。	▶ コネクションエンドまたはチャックを清掃し、グリスを塗布します。
	チャックまたはコネクションエンドのシールの損傷。	▶ シールを点検し、必要ならば交換します。
穿孔システムの遊びが大きすぎる。	ダイヤモンドコアビットがチャックにしっかりと固定されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ダイヤモンドコアビットをしっかとねじて締め付けます。</li> <li>▶ ダイヤモンドコアビットを取り外します。コアビット軸を中心にダイヤモンドコアビットを約90°回します。ダイヤモンドコアビットを再度取り付けます。</li> </ul>
	コネクションエンド / チャックの故障。	▶ コネクションエンドとチャックを点検し、必要ならば交換します。
	ダイヤモンドコアドリルとキャリッジまたはスパーサーとの接続が緩んでいる。	▶ 接続を点検し、必要に応じてダイヤモンドコアドリルを改めて固定します。
	キャリッジの遊びが大きすぎる。	▶ コラムとキャリッジ間の遊びを調整します。→ 頁 23
	ドリルスタンドのネジ接続が緩んでいる。	▶ ドリルスタンドのネジが確実に取り付けられているか点検し、必要に応じて増し締めします。
	ドリルスタンドが確実に固定されていない。	▶ ドリルスタンドを確実に固定します。

## 8.2 ダイヤモンドコアドリルが作動しない

故障	考えられる原因	解決策
 <p>サービスインジケータに何も表示されない。</p>	漏電遮断器がオンになっていない。	▶ 漏電遮断器が正しく作動するか点検し、漏電遮断器をオンにします。
	供給電源の遮断。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 他の電動工具を接続して機能を点検します。</li> <li>▶ プラグ接続、電源コード、電線および主電源ヒューズを点検します。</li> </ul>
 <p>温度表示、過電圧 / 電圧不足表示の点灯。</p>	モーターの過熱。	▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして (OFF 水位値を中央位置に押す)、再びオンにします。給水を点検します。冷却後、ダイヤモンドコドリルは再び使用可能状態になります。

故障	考えられる原因	解決策
 温度表示、過電圧 / 電圧不足表示の点滅。	電源の不具合。	▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして (OFF 水位値を中央位置に押す)、再びオンにします。電源を点検してください (特に発電機と変圧器)。
	自動ドリルフィードの非常停止DD-AF CA が操作された。	▶ 自動ドリルフィードの非常停止ボタンDD-AF CA をロック解除します。
 サービスインジケータが点滅。	ダイヤモンドコアドリルの故障、あるいは安全機能が作動した。	▶ ダイヤモンドコアドリルをオフにして (OFF 水位値を中央位置に押す)、再びオンにします。
モーターが停止する。	コアビットがブロックされている時間が長すぎる。	▶ ブロックを解消し、モーターをオフにして再びオンにします。

## 9 廃棄

 Hilti 製品の大部分の部品はリサイクル可能です。リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。多くの国で Hilti は、古い工具をリサイクルのために回収しています。詳細については弊社営業担当または Hilti 代理店・販売店にお尋ねください。

古い電気および電子工具の廃棄に関するヨーロッパ基準と各国の法律に基づき、使用済みの電気工具は一般ゴミとは別にして、環境保護のためリサイクル規制部品として廃棄してください。



- ▶ 本体を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

### 穴あけおよび切断作業で生じたスラリー

環境面について言えば、穴あけおよび切断作業で生じたスラリーを適切な前処理なしに、そのまま河川、湖水、下水施設などに流すのは問題となります。

- ▶ 地域で適用されている法規について当局に問い合わせてください。

前処理として以下を提案いたします：

- ▶ 湿式バキュームクリーナーを使用するなどして、穴あけまたは切断作業で生じたスラリーを集めます。
- ▶ スラリーを立てた状態にするかあるいは凝集剤を添加して、穴あけまたは切断作業で生じたスラリー内の微粒子を水から分離します。
- ▶ 穴あけまたは切断作業で生じたスラリー中の固形物は建設廃棄物処理場で廃棄してください。
- ▶ 穴あけまたは切断作業で生じたスラリーの残留水 (アルカリ性、pH 値 > 7) は、下水に流す前に多量の水あるいは酸性中和剤を加えて中性化してください。

## 10 RoHS (有害物質使用制限に関するガイドライン)

下記のリンクより、有害物質を記載した表を確認できます：[qr.hilti.com/r3411829](http://qr.hilti.com/r3411829)。

本書の最終ページに RoHS 表にリンクした QR コードがあります。

## 11 メーカー保証

- ▶ 保証条件に関するご質問は、最寄りの Hilti 代理店・販売店までお問い合わせください。



**Hilti Corporation**  
Feldkircherstraße 100  
9494 Schaan | Liechtenstein

DD 350-CA (01)

2017

2006/42/EC

EN ISO 12100

2014/30/EU

EN 62841-1

2011/65/EU

EN 62841-3-6

Schaan, 2017-10-06

**Paolo Luccini**

Head of Quality and Process Management  
Business Area Electric Tools & Accessories

**Johannes Wilfried Huber**

Senior Vice President  
Business Unit Diamond





Hilti Corporation

LI-9494 Schaan

Tel.: +423/234 21 11

Fax: +423/234 29 65

[www.hilti.group](http://www.hilti.group)

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan



20171009